

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2192200026		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム千本松「福寿苑」 やすらぎ		
所在地	岐阜県海津市海津町福江639-1		
自己評価作成日	平成24年11月9日	評価結果市町村受理日	平成25年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2012_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2192200026-00&amp;PrEfCd=21&amp;Versi.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2012_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2192200026-00&amp;PrEfCd=21&amp;Versi.onCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成24年12月11日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

御利用者様一人ひとりに合った ケアを 心掛け 住み慣れた自宅や ご家族と離れた施設生活を職員が理解して 配慮しながらコミュニケーションすることで 安心した毎日を送っていただき 又 ご家族にも気軽に 施設に足を運んでいただけるような 雰囲気づくりに努めている

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

法人が運営する同種の事業所が隣接して連携しながら、利用者が出来る力を活かし安心して暮らせる事業所を目指している。自治会に加入し、掃除・廃品回収など積極的に参加し地域との交流を深めるよう努力している。職員は、利用者が自分の思いを気兼ねなく言えるようにと利用者の立場に立って接している。個々の要望に沿った計画書を作成し、職員全員が周知統一したケアが実践できるようにも努めている。避難訓練では、全職員が消火器の使用練習を行ったり、反省点・課題を目のつく処に貼り、あわてず対応が出来るようにしている。共有空間が広く、日中は日が差し込み利用者同士や職員との会話を楽しむ時間を過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果 やすらぎ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営の理念、職員の心得を制定している。月1度の職員会議で、理念、心得を唱和し、職員間で理念の共有及び介護に対する意識の向上に努めている。	年度毎に職員と一緒に理念の見直しを行っている。常に技術、知識の向上を求め利用者の生きがいを引き出し、出来る力を活かした支援が出来るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加できるように 自治会に参加 ご意見を頂きながら 施設へ来苑の声掛けをしたり 散歩中には 近隣の方には こちらから声かけするように努めている	学校の運動会や行事、自治会の掃除・廃品回収などに参加をしている。また、日常的に散歩に出かけ顔馴染みになり、地域との交流を大切にしているが、事業所の行事などに地域の方の参加する機会が少ない。	地域の方が事業所の行事などに参加をしてもらい、利用者と地域の繋がりをより一層深まるよう更なる努力を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小中学校生徒の就労体験を受け入れ、児童やその家族に向けて認知症対策の情報を提供している。また運営推進会議時に地域のご来賓やご家族様に理解と広報活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	合同運営推進会議を継続しながら、会議終了時から、それぞれの事業所で昼食会やおやつ会を開き、改めて、ご家族の皆さんから個別意見や、より身近な意見交換が得られるようにしている。	合同会議後事業所ごとに分かれて話し合いをしている。他職種からの意見交換がなされ、サービスの質の向上に活かしている。欠席の家族の方に会議録送を送付し、報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の高齢福祉課、地域包括支援センター、消防署等に出席して頂き、各方面からの提言や助言を受けている。また、海津市ケアマネ連絡協議会にも積極的に参加し意見交換等を行っている	事業所から積極的に市の窓口に出向き、担当者との連絡・相談などを行っている。また、行政側からも来られ相談がしやすい関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の認識や共有の勉強会を毎月の職員会議でテーマを設け実施している。玄関の番号ロックは日中は 解除するように努め 利用者様の安全を見守り 対応ができるようにしている	身体拘束に対して正しく理解をするために、毎月職員全員でテーマを出しながら勉強会を開いている。外出願望が強い方は職員と一緒に同行し玄関は施錠をしないようにする工夫もしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	福祉相談センター主催の研修会にも参加 職員の勉強会に繋げ 入浴時には 身体の観察に心がけ管理者等に些細な事でも言えるようにしている		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加するとともに 職員会議での発表により勉強会を実施 又 権利擁護を利用されている利用者様が入所されていることで 職員の勉強になっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに対する姿勢を説明し了承を得ている。緊急時の連携体制や料金体制、また契約解除に至る対応等、そしてその後の支援にも納得が得られるようお話ししている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の支援を心がけている。また、運営推進会議や事業所独自のアンケートを実施し、日々の会話の中でご家族様からご意見等を頂きケアに反映している	家族に事業所での様子を小まめに連絡をする事を心がけ、信頼関係を築くよう努めている。また、家族にアンケートを行い要望などを聞き出している。段差があり車イスでの移動がしにくいとの意見があり段差を改修した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、朝のミーティング、個別面談で意見交換を行う機会を多くしている。日頃から職員の要望や意見を聞き運営に反映している。	代表者や管理者は毎月行われるミーティングや朝礼で職員の意見を聞いている。解決できる提案は直ぐに取り組みようように心がけている。リクライニング式の車いすの使用やベッド柵の長さなどの案を取り入れ反映させた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の体調や家庭環境に充分配慮し、働きやすい勤務状況を創設している。そんな中で職員のモチベーションが保たれるよう研修機会を全員に案内し、学べる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、個々の状況に応じた広範囲な研修機会を作り出している。復命書の提出と共に、職員会議で伝達講習も実施している。新人教育についてもプリセクターをつけ期間ごとに評価を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	キャリア形成訪問指導事業を活用する等、外部から講師を招き、他事業所の職員と合同勉強会を開催している。同社の6事業所との交流研修を定期的実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を重視し利用者様の状況把握することで 入所後の対応を決め 又 本人様及び ご家族に納得して頂くよう説明をし信頼関係を築く努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談で利用者様を始めご家族の立場や状況をお聞きするとともに 入所後の対応をご家族にも理解していただいてから 入所を決めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様を始めご家族が今すぐに何が必要か見極める努力に努め 把握し対応することで 安心して頂き 今後の信頼関係に繋げている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は自分の言動・行動により利用者様の信頼が得られる事を理解し 利用者様との協働により支えあう関係作りをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様にはご家族様の大切さを理解して頂き ご家族には 利用者様の声に出ない思いを伝えるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援時には お千代保稲荷に計画を立てたり 馴染みのある喫茶店に出向いたりして 楽しい時間を過ごしている	友人や家族が訪れた際、職員より声をかけ気兼ねなく訪問して欲しい事をお願いしている。家族の協力を得て、自宅の草取りや喫茶店に行ったり、習字をする事を継続したりしている方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの様子を見ながら 居室でお話を伺ったり 利用者同士の会話が円滑にでき 楽しい時間を過ごしていただけるように 声掛けしたり 見守りをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も 利用者様を始めご家族との関係を断ち切ることのないよう お手紙を出すようにしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活場面を観察することで 利用者様の精神面を理解するように努め 散歩にお誘いしたりして 希望や意向を把握できるように努めている	センター方式を活用して利用者の暮らしの情報を得ている。自分の思いを話せる方には、希望や意向を聞いて把握するよう努めている。意思疎通が困難な方には、毎日の表情や仕草で汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との会話やコミニケーションにより信頼を深め 生き立ちや生活歴・家族などのお話をして頂きながら 施設での生活に反映している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から就寝までの生活・他の利用者様との関わり・職員との関わり・ご家族との関わりを観察する事で 本人様を理解するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様とは日々の生活の中から ご家族の思いは面会時に 何気ない会話の中から意向を汲み取るよう心がけ チームケアは日常の支援をしている職員の目を大切にして その方にあった自立支援ができるように計画を立てている	面会時、家族・利用者の意向を確認している。毎月のモニタリングは現場スタッフが記入をし、個別のケアが実践できるように介護計画を作成している。状態やケア内容の変化時には、必要な関係者と話しあい随時変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	高齢で認知症のため自分の思いを伝える事が難しい利用者様に代わり 日常生活の中での変化を気づき 記録により 職員間で共有 見直しながら その方より良いケアが出来るようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの利用者様の状況や環境の違いを知ることで個々のニーズに合わせて 対応するすように 配慮している		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者始めご家族 近隣・職員 又 運営推進会議では行政による地域資源の活用などの助言をいただき 利用者の日々の生活に反映している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	高齢者である利用者の安全を守る為にかかりつけ医との連携を密にして 医師の指示のもと対応すると共に ご家族のご意見を尊重 他の医療機関へも受診している	入居時に本人・家族に説明し、事業所の協力医に受診をしている。専門の診療科目などは家族の協力を得て、適切な治療が受けられるように支援している。受診結果は協力医・家族・事業所と共有をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常にご利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員のいない時間は介護職員が小さな変化も見逃さず、看護職員と確実な連携の基、適切な医療やケアを受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院の際は ほぼ毎日病院に顔を出し様子を見させて頂き 病院関係者との情報を密に取りながら 早期に退院できるよう対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で出来ることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設側から終末期のあり方を 本人様およびご家族には御元気なうちからお話して 意向を伺うようにしているまた 医療機関及び他施設との協力体制を整えている	契約時に重度化や終末期の事業所の方針を説明している。段階に応じ状態を詳しく家族に説明し意向を聞きながら相談しあっている。終末期のあり方の勉強会・研修会を行い職員の向上にも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の緊急時の対応についてのマニュアル、応急措置や救急車が来るまでに準備する事等についての勉強会を実施し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画の基、一年に二回、昼間と夜間を想定した避難訓練、消火訓練、非常召集訓練等を実施している。また、運営推進会議等で、ご家族、自治会にいざとなった時に直に駆けつけて頂くような協力体制の話し合いを進めている。	運営推進会議後に消防署との訓練を見学、参加をしてもらう事で、家族・地域の方の協力、理解が得られた。訓練後の具体的なアドバイス・反省点をまとめ皆が周知出来るようリビングに掲示している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どんな状況であっても 利用者様の思いを理解することにより 人格の尊重とプライバシーの保護を優先しケアに当たるよう心掛けている	トイレ誘導時など一人ひとりの人格が損なわないように声かけに注意している。自己決定が出来る場面作りも大切に、自尊心を傷つけないように心がけているが、排泄時カーテンの隙間から中の様子が見えプライバシーが守られていない。	トイレ内のカーテンについては、利用者のプライバシーを守る観点から外部から見えないように工夫をする事を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で 利用者様の 表情や態度で変化に気づくように努め 思いや希望を表出して下さるようコミュニケーションを摂っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間は一応きまっているが その日のお天気や 体調に合わせて 散歩に出かけたりして 利用者様の希望に沿うようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近くにある美容院から施設へ出向いてもらったり 利用者様が出かけられたりと その時の気分で決めていただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おはぎを 献立に取り入れたり ご家族様や職員の採れたて野菜や果物の差し入れにより 調理前の準備を手伝っていただいたり 又 気分を変えて 裏庭など外に出て 食事をしたりしている	簡単な作業を手伝ってもらったり、職員も同じ物を食べ話しをしながら食事を楽しむように支援をしている。さりげない声かけを行い出来るだけ自分で食べてもらう事を基本としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の疾病及び体調により異なる部分もあるが 水分及び食事の摂取の確認にて 足りない時には 栄養補助食品やスポーツドリンクなどの提供にて摂取しやすい配慮をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔の状態に合わせた方法で、毎食後の口腔ケアをしている。口腔内の状態の悪化が認められる場合は、速やかにかかりつけ医、医療機関に受診するようになっている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや排泄状況を把握し、小さなサインでも見逃さないようにし、トイレで排泄出来るよう支援している。失敗で自尊心をきずつけることのないように声掛けにも配慮して対応している。	体操や散歩に出かけるようにして、薬に頼らず自然に排泄が出来るようにしている。夜間は介助を二人で行い、おむつは最終手段と考えトイレでの排泄に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を観察常に把握し 食事摂取による自然な排便を促す事が出来るように 朝一番の牛乳・センナ茶を飲んでいただいたり 献立に食物繊維を多く摂るようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の体調により入浴していただき 希望があれば いつでも 入浴していただけるよう配慮している	週3回を基本としているが、毎日利用者の好きな時間に入浴が出来る体制を作っている。入浴を拒む方には、時間をずらしたり入浴日を変更したりして個々の要望に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や行動を把握することで 休息を促したり 日光浴していただくよう声掛けしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬剤について職員が周知するよう内服薬の説明書を掲示している。また薬剤の変更等があった時はミーティング及び申し送り書に記載し、誤薬のないよう周知徹底を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の一人ひとりの生活歴を把握 その方にあった 家事を手伝って頂いたり 皆さん揃って楽しんでいただくことの出来るような手作りのカルタなどの提供し 笑い声の聞こえる施設を心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日など 利用者様から散歩や喫茶店など行こうと職員に催促される為 都合をつけて 両ユニット誘い合わせ 出かけている	利用者の希望から以前に住んでいた家の近くまで出かける時もある。2ヶ月に1回はボランティアの協力を得て遠方の外出支援を計画している。天気の良い時、散歩・喫茶店にも出かけている。	



グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、混乱を招くことの無いよう 希望があれば一緒に買い物に行ったり 状況に応じて ご家族と相談して決めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が御家族に連絡したい時には 自ら事務所に来られようにオープンにしてあり 又年賀状や暑中見舞いのはがきを出すことが出来るように準備している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には 消臭用にとご近所から頂いた炭を設置 又 施設内で育てた花や職員が持ち寄った花を お花の師匠をされていた利用者様が 生けてくださる	共有の空間は広く、車イスでも移動がしやすくなっている。また畳の共有部屋もあり、利用者同士がゆっくと話せるスペースとなっている。玄関先には利用者が作ったひょうたんを飾り、リビングの壁には利用者と一緒に折り紙作品を飾り季節感を取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前のソファーに座り居眠りされたり 又 玄関には椅子・裏庭には縁台と気のあった同士の御利用者様おしゃべりできるスペースが用意してある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御利用者様や ご家族の意見をもとに安心して過していただけるようにし 入室の際はノック及び声掛けするようにしている。	居室の入り口には屋根があり、筆で描いた表札も掲げられ、まるで家の玄関のようにしている。居室にはお気に入りの写真や作品が飾られお化粧道具もあり、使い慣れた物を活かした部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は自由に行動できるよう 障害物を取り除き 隣ユニットにも自由に車椅子で移動可能な環境を 整えている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200026		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム千本松「福寿苑」 なごみ		
所在地	岐阜県海津市海津町福江639-1		
自己評価作成日	平成24年11月9日	評価結果市町村受理日	平成25年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2012_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2192200026-00&amp;Pr_efCd=21&amp;Versi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2012_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2192200026-00&amp;Pr_efCd=21&amp;Versi_onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成24年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者様一人ひとりに合った ケアを 心掛け 住み慣れた自宅や ご家族と離れたの施設生活を職員が理解して 配慮しながらコミュニケーションすることで 安心した毎日を送っていただき 又 ご家族にも気軽に 施設に足を運んでいただけるような 雰囲気づくりに努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 なごみ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営の理念、職員の心得を制定している。月1度の職員会議で、理念、心得を唱和し、職員間で理念の共有及び介護に対する意識の向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加・運営推進会議も参加していただき助言を頂いたり 隣接する美容院・喫茶店・商店を利用したり 又 散歩時には 野菜など頂いて親しくしていただいている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小中学校生徒の就労体験を受け入れ、児童やその家族に向けて認知症対策の情報を提供している。また運営推進会議時に地域のご来賓やご家族様に理解と広報活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	合同運営推進会議を継続しながら、会議終了時から、それぞれの事業所で昼食会やおやつ会を開き、改めて、ご家族の皆さんから個別意見や、より身近な意見交換が得られるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の高齢福祉課、地域包括支援センター、消防署等に出席して頂き、各方面からの提言や助言を受けている。また、海津市ケアマネ連絡協議会にも積極的に参加し意見交換等を行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の認識や共有の勉強会を毎月の職員会議でテーマを設け実施している。玄関の番号ロックは出来る限り 日中は解除するように努め 安全のための見守りができるようにができるように 対応している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し、見過ごされてしまいそうな虐待についても話し合い職員の共通認識を高めている。福祉相談センター主催の研修会にもなるべく全員が行けるようにしている。入浴時には身体の観察をすることで 見過ごすことの無い様に努めている		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	福祉相談センターの研修会に出来るだけ多くの職員が参加できるようにしている。また 独居で子供さんがおられないご利用者の相談に対応している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに対する姿勢を説明し了承を得ている。緊急時の連携体制や料金体制、また契約解除に至る対応等、そしてその後の支援にも納得が得られるようお話ししている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の支援を心がけている。また、運営推進会議や事業所独自のアンケートを実施し、日々の会話の中でご家族様からご意見等を頂きケアに反映している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、朝のミーティング、個別面談で意見交換を行う機会を多くしている。日頃から職員の要望や意見を聞き運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の体調や家庭環境に充分配慮し、働きやすい勤務状況を創設している。そんな中で職員のモチベーションが保たれるよう研修機会を全員に案内し、学べる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、個々の状況に応じた広範囲な研修機会を作り出している。復命書の提出と共に、職員会議で伝達講習も実施している。新人教育についてもプリセクターをつけ期間ごとに評価を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	キャリア形成訪問指導事業を活用する等、外部から講師を招き、他事業所の職員と合同勉強会を開催している。同社の6事業所との交流研修を定期的実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談などで、ご本人やご家族から、これまでの生活状況や今後の生活に対する思いを充分にお聞きをし、安心と安全に暮らして頂ける環境になるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労やこれまでのサービスの利用状況、経緯について、ゆっくり話を聞くようにしている。話を聞く事で、ご家族が求めている事を理解し、事業所としてどのような対応が出来るか事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前相談等でご本人、ご家族の思いや状況を確認し、改善に向けた支援の提案及び相談を繰り返し、信頼関係を得るよう努力している。その中で何が必要かを見極めながら事業所として出来る限りの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は人生の先輩であるご利用者に色々な事を学ばせて頂いたり、励ましを頂いたりして、働く者として元気や意欲に繋がっている。お互いが協働しながら穏やかな生活ができるように場面づくりや声掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状況をご家族に繰り返しお話し、情報共有に努め、ご本人と一緒に支えるためにご家族と同じような思いで支援しながら協力関係を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者が経営されていたお店を皆さんで訪ねたり、馴染みの神社に参拝したり、また馴染みの知人、友人等が訪問されるようにご家族に働きかけ継続的な交流が出来るようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間の場面づくりをするなど、利用者同士の関係がうまくいくよう良き調整役になれるよう、職員間で情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られる方にも、これまでの施設での状況を きめ細かく伝える事で安心していただきご家族には 今後も相談を受け付けることを 伝えている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言動、行動、表情などから、その真意を推し量ったり、それと無く確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、ご家族に情報を得るようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の今までを知るために、ご家族や連携施設に協力して頂き、情報把握に努めている。必要な時はご家族の了解を得て、面会に来られる知人、友人にも情報収集を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり一人の生活リズムを理解すると共に、行動や小さな動作から、ご本人の全体像を把握している。出来ない事より出来る喜びを共有できるような働きかけに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞きケアに反映している。また、月一回の職員会議で活発な意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い、ご本人ご家族の思いの代弁書と捉え介護計画に盛り込んでいます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに食事、水分量、排泄等身体的状況及び日々の暮らしの様子やエピソード等を記録し、職員間の情報共有を徹底すると共に、介護計画を見直す事で評価し、次のケアにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、通院の送迎、衣類や介護用品の購入、また行政等への申請に関する助言など、個々のニーズに柔軟に対応し、満足度を高めるように努めている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者が安心して地域で暮らしを続けられるよう、市役所、警察所交番、消防署、福祉施設、小学校、保育園、自治会等、地域の資源を活用できるよう運営推進会議等を通じて意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のかかりつけ医のほか、利用前からのかかりつけ医で受診できるよう、また基本的には家族同行の受診となっているが、不可能の場合は職員がご家族の同意を得て代行している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常にご利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員のいない時間は介護職員が小さな変化も見逃さず、看護職員と確実な連携の基、適切な医療やケアを受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐため、状況に応じて看護職員が見舞いに行き医師と話し、事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院出来るようアプローチしている。ご家族とも情報交換し、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で出来ることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を早い段階から話し合い、看取り介護に関する指針のもと、ご家族、医師、看護師との連携を密にしながら、状態の変化があるごとに、ご家族の気持ちの変化やご本人の思いに注意を払いながら、チームで支援に繋げるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の緊急時の対応についてのマニュアル、応急措置や救急車が来るまでに準備する事等についての勉強会を実施し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画の基、一年に二回、昼間と夜間を想定した避難訓練、消火訓練、非常召集訓練等を実施している。また、運営推進会議等で、ご家族、自治会にいざとなった時に直に駆けつけて頂くような協力体制の話し合いを進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるという共通認識の基、ご利用者の誇りや大切にされていること、プライバシーを損ねない対応についてなど、職員会議やミーティングの折に徹底を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者に合わせて声を掛け、意思表示が困難な方にはメモを使ったり、些細な事でも表情から気持ちを汲み取るように努力をしている。押しつけることなく複数の選択肢を提案し、ご利用者が自分で決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日は決まっているが、一人ひとりの体調に配慮しながら、自分のペースで生活出来るよう支援している。また、ご利用者のリクエストで近くの散歩なども対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みや季節に合ったおしゃれを楽しんでいただけるよう、ご家族に衣類の補充をお願いしている。近所の美容院から利用者様に合わせていただき 出かけたり 出向いてもらったりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みや希望を聞きながら食事作りをしている。食事から季節を感じて頂けるよう工夫したり、準備や片付けを一緒にして頂いたり、またテーブルを囲んで一緒に食事できるよう楽しい大切な一日を心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量、栄養のバランスについて確認し、捕食が必要な方には、その時々に合わせてお出している。食事形態にも考慮し、少しでも手作りの食事を召し上がって頂くよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔の状態に合わせた方法で、毎食後の口腔ケアをしている また 声掛けをしている 口腔内の状態の悪化が認められる場合は、速やかにかかりつけ医、医療機関に受診している。		



グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや排泄状況を把握し、小さなサインでも見逃さないようにし、トイレで排泄出来るよう支援している。失敗があっても極力ご本人が傷つかないような声掛けをするように 努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況、活動状況、摂取状況を把握し少しでも自然な排便があるように働きかけている。食事は食物繊維の多く含まれている物を食べて頂くよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人のその日の気分や体調に合わせて入浴にお誘いしている。入浴が職員とのコミュニケーションの場となるよう、穏やかな雰囲気を入浴して頂くよう心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中と活動のバランスに気をつけ、ご本人のタイミングで安心して就寝できるようチームで配慮している。希望があれば好みの寝具を持って来て頂き安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬剤について職員が周知するよう内服薬の説明書を掲示している。また薬剤の変更等があった時はミーティング及び申し送り書に記載し、誤薬のないよう周知徹底を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり 利用者様に合わせて 出来る事を見つけ 本人様の出来る力を発揮できるように 声掛け 参加していただくように している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、ご本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい心身の活性につながるよう、近くの公演に行ったり、付近の散歩を日常的に同行している。また、ユニット皆さんの希望により喫茶店や馴染みの店にも出掛けている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は、色々混乱を招くことがあるため希望があれば買い物に一緒に出かけたりして事業所内で管理させて頂き ご家族にも了承していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人に電話しやすい雰囲気づくりや電話を架けるお手伝いをしている。また、電話される時は他の利用者に会話が聞こえないように場所等に配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には ご近所から頂いた炭で 消臭に役立てたり ご家族が持参していただいた季節の花や、果物を みる機会を多く持つようになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に、縁台、椅子、ソファを置き、人の気配を感じながら、一人で過したり、仲のよい利用者同士でくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の好みや馴染みのものを自宅より持参していただき 本人様の意見を取り入れ 生活スタイルに合わせて配置出来るようにしている。また、職員が居室に入室するときは ノック及び声掛けをするようにしてプライバシーを大切に心がけている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は 利用者様が出来る限り ご自分で移動できるように 環境整備に心がけ 隣のユニットにも 自由に行き来できるように 見守っている		